

簿記・会計

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和4年度大学入学共通テスト追・再試験が実施された。

共通テスト追・再試験の「簿記・会計」は、本試験と同様の出題範囲となっている。また、共通テスト追・再試験の受験者数、得点状況等については非公表であるが、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するという役割は本試験と変わらず、センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視される。また、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定が重視される。

評価に当たっては、このようなことを踏まえ、「簿記・会計」の内容・範囲、難易度や分量、表現及び形式、また、センター試験からの要望や意見への対応等を含めて、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 試験問題の範囲・構成等

今回の出題内容は、全ての問題において学習指導要領・解説の範囲内であり、特定の教科書や分野に偏ってはならず、学習指導要領の目標に沿って、「簿記・会計」の基本的な仕組みの総合的な理解度を見ることのできる問題となっている。令和4年度の「簿記・会計」追・再試験の内容と配点、学習指導要領との関連を整理すれば、〈資料〉のとおりである。

〈資料〉追・再試験の出題内容等一覧

第1問（配点40）

設問(配点)	出 題 内 容	学習指導要領との関連
A (20) 問1 (4) 問2 (2) 問3 (6) 問4 (2) 問5 (2) 問6 (2) 問7 (2)	○前期繰越高と期中取引及び仕訳帳の記帳から金額と勘定科目を答える問題 ○再振替仕訳に関する問題 ○分記法による商品売買の記帳に関する問題 ○当座借越の記帳に関する問題 ○仕訳と転記に関する問題	簿記 (1)簿記の基礎 エ簿記一巡の手続 (2)取引の処理 ア現金預金 イ商品売買
B (20) 問1 (2) 問2 (6) 問3 (2) 問4 (2) 問5 (2) 問6 (2) 問7 (2) 問8 (2)	○営業部長と税理士の会話文形式の問題 ・損益に関する問題 ・委託販売に関する問題 ・未着商品売買に関する問題 ・荷為替手形の引き受けに関する問題 ・取引要素の結合関係に関する問題 ・試用販売(対照勘定)に関する問題	簿記 (1)簿記の基礎 エ簿記一巡の手続 (2)取引の処理 イ商品売買 ウ債権・債務

第2問 (配点30)

問1 (6) 問2 (16) 問3 (4) 問4 (2) 問5 (2)	○単一仕訳帳制度を採用している個人企業の商品売 買における一連の取引から、各種帳簿（総勘定元 帳・仕入帳・売上帳・商品有高帳・受取手形記入 帳・支払手形記入帳）の空欄（数量・金額・勘定 科目・商店名）を答える問題 ○先入先出法及び移動平均法による場合の売上原価 と売上総利益を比較する問題	簿記 (2)取引の処理 イ商品売買 (5)会計帳簿と帳簿組織 ア会計帳簿
---	--	---

第3問 (配点30)

問1 (4) 問2 (22) 問3 (2) 問4 (2)	○個人企業における決算の問題 （修正事項及び決算整理事項等から精算表の空欄 （勘定科目・金額）を答える問題） ○売上総利益を答える問題 ○備品の売却に関する問題	簿記 (2)取引の処理 エ固定資産 (3)決算 ア決算整理 イ財務諸表の作成
---------------------------------------	--	--

3 試験問題の内容・分量・程度・表現等

全体的な難易度は、本試験の問題と比較するとやや易しいように思われる。第1問の設問Aは、いずれも「簿記」の基礎・基本を問う問題で、比較的容易に解答できるものが多かった。また、設問Bは、会話文形式の問題のため多少の戸惑いが生じたかもしれないが、特殊商品売買に関する基礎的・基本的な内容である。第2問は、単一仕訳帳制度における仕訳と転記、各種補助簿への記入、各種帳簿（総勘定元帳・仕入帳・売上帳・商品有高帳・受取手形記入帳・支払手形記入帳）間の関連等を問う問題であり、帳簿の記入に関する総合的な理解が求められた。第3問は、精算表の作成をはじめ個人企業の決算に関連する問題である。基礎的な内容から応用的な内容までを網羅した良問である。全体を通して基礎・基本を問う問題と思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランス良く出題されている。受験者には簿記・会計の仕組みの総合的理解が求められ、学習の到達度を測る問題として適切である。設問文や形式は明瞭簡潔で無駄や不足はなく、文章表現や漢字表記も難解にならないように配慮されている。ページ配置も読み取りやすく適切である。また、配点についても全てが2点問題で統一されており、どの問題に正解したかによって有利・不利が生じないよう配慮されている。センター試験からの意見・要望が生かされており、今後も引き続きこのような配慮をお願いしたい。しかし、分量については再考の余地があるのではないだろうか。全体的に作業量が多く、試験時間が不足気味であったように感じられる。また、今回の問題では、「財務会計Ⅰ」からの出題が一題も見当たらなかった。学習の到達度を測るという観点からも全く出題されないのはいかがなものだろうか。是非再考をお願いしたい。

第1問 Aは、簿記の基礎的・基本的な取引や仕訳帳の記帳等に関する問題である。問1の **アイ** は、資本等式（資産¥3,500－負債¥1,300＝資本¥2,200）を用いて解答を導いた受験者が多いと思われるが、**資料3**の仕訳帳の前期繰越高¥3,500の意味が理解できていれば、**資料1**より資産合計を計算する必要はない。受験者には問題全体を見渡す力や判断力が試されたのではないだろうか。**ウエ**は、備品の取得原価に据付費用が加えられることが理解できているかを問うものである。基本的なことであるが、間違えやすい内容でもあるため、受験者の思考力が求められる問題であった。問2の再振替仕訳は、正しい期間損益計算を行ううえで非常に重要な内容であるが、授業においてはおろそかにされがちな内容でもある。授業におけるきめの細かい指導の必要性が感じられる問題であった。問3は、はがきの購入や為替手形の振り出し、店主の住民税などいずれも間違えやすい内容ではあるが、簿記の基礎・基本の理解を問う良問である。なお、店主の住民税については、引出金勘定を用いていないことが問題文に明記され

ており、これがヒントにつながった受験者もいたのではないだろうか。問5は、**資料1**の繰越商品が8日に売り上げた商品であることを問題文から読み取ることができるかがポイントとなる。難しい問題ではないが、文章を正確に読み取る能力が試された。問6の当座借越は**資料1**の前期繰越からスタートし、**資料3**の仕訳帳を日付順に追うことができれば容易に解答することができる。

いずれの問題も難易度は高くないが、基礎的・基本的な問題に思考力を問う問題がちりばめられており全体を通して良問であると感じた。

Bは、特殊商品売買（委託販売・未着商品売買・試用販売）における処理について問う問題である。営業部長と税理士の会話文形式で、共通テストの特徴の一つである問題の場面設定が意識された問題であるが、仕訳を連想しながら問題を解くことで、比較的容易に解答することができたと思われる。特殊商品売買は来年度の1年生から実施される学習指導要領では、「簿記」から除かれる内容であるが、いつどのように収益と費用を記録・計算するのかは、簿記を学習するうえで非常に大切な論点である。普段余り意識しないで問題を解いている受験者も多いと思われるが、検定試験の内容に終始することなく、きめの細かい指導をすることの大切さを感じられる良問であった。しかし、文章表現については気になる点があった。会話文のなかで、委託販売のため商品を発送した際に、「**子**勘定から（ ）勘定に振り替えます」との表現があるが、（ ）勘定は、**ツ**の解答でもある積送品のことである。会話文の中に同じ語句が2回以上出てくる場合、**又**や**ノ**では、1回目が太枠のゴシック体、2回目以降が細枠の明朝体で記載されているのに対し、（ ）勘定と**ツ**勘定に分かれていることは、受験者の混乱を招くことにもなりかねない。**ツ**の解答が、発送費なのか積送品なのかを考えさせるための工夫であろうが、統一性のない表現には違和感があった。

第2問 単一仕訳帳制度を採用する個人企業における仕訳と転記、各種補助簿への記入、各種帳簿（総勘定元帳・仕入帳・売上帳・商品有高帳・受取手形記入帳・支払手形記入帳）間の関連等を問う問題である。**資料1**から**資料5**までの資料全体を見渡し、各資料の関連を正しく読み取り、答えを導き出す思考力が要求されるが、日付や勘定科目から他の帳簿とのつながりがすぐに判断でき、複雑な計算もないため、比較的解答しやすかったのではないだろうか。

問1は、**資料2**の各勘定の日付と**資料1**の同日の取引を結び付けることで比較的容易に解答を導くことができる。問2も各資料のつながりを見ることで、比較的容易に解答できるものが多かったが、10日の取引及び仕入帳の資料から商品単価を計算し、それを元に返品数量を求める**ク**や引取運賃を仕入原価に加えたうえでその単価を計算し直す**ソタ**は、受験者の思考力が問われる問題であった。しかし、**ク**と**スセ**は論点が重なっていると思われる。10日の資料から商品単価が計算できなかった受験者はどちらも得点することができない。10日の商品単価を求めることは、それほど大変な作業ではないにせよ重複採点を避けるような配慮が必要であったのではないだろうか。問3は、手形の種類によって支払人が異なることが理解できているかを問う問題であるが、約束手形及び為替手形の仕組みがよく理解できていない受験者も多いため、受験者の知識の理解度を測ることのできる問題である。問4は、移動平均法を用いた場合の商品単価の算定であるが、複雑な計算ではなく、電卓を使用できない試験に対する配慮が感じられた。問5は、先入先出法を用いた場合と移動平均法を用いた場合の売上原価と売上総利益を比較する問題であり、受験者の思考力が問われる良問であった。

設問全体としては、比較的解答しやすいものが多いが、思考力を要するものもバランス良く配分されており、受験者の思考力・判断力・表現力等を問うことのできる良問であったと思う。ページ配置については、合計5ページにまたがってはいるが、問題を解く際には、見開き2ペ

ページずつの計4ページで内容が読み取れるようになっており、読み取りやすさが確保されていた。今後もこのような配慮をお願いしたい。

第3問 精算表の作成等、個人企業の決算の問題である。資料1の修正事項と資料2の決算整理事項等を順番どおりに仕訳していくことで、問1・問2ともにスムーズに解答することができたのではないだろうか。修正事項・決算整理事項等のいずれの内容もさほど難易度は高くなく、共通テストの第3問としては標準的な問題だと思われる。一方、チツテについては、再振替仕訳を考慮したうえで、見直し後の保険料を計算する必要がある難解な問題であるが、これまでのセンター試験でも複数回出題されている内容であり、思考力を問うことのできる良問である。問3は、売上総利益の算定である。精算表の作成においては、売上総利益は考慮しなくてもよいものであるが、利益の算定は「簿記・会計」において非常に重要な内容であり、受験者の学習の到達度を測ることのできる良問であった。問4は、備品の売却である。資料3の精算表に備品減価償却累計額が記載されていないため、減価償却累計額を計算する必要がある。決算整理後の減価償却累計額である点にも注意が必要であり、思考力・判断力・表現力等が問われる問題である。

設問全体として基礎的な内容から応用的な内容までが網羅された良問であると思われる。しかし、全体的に作業量が多く、解答に多くの時間を費やしたように感じる。第1問・第2問ともに、時間を要する問題であったことを考えると、もう少し内容を精選してもよかったのではないだろうか。

4 ま と め（総括的な評価）

- (1) 受験者の学習達成度を適正に判定できる問題である。今回の問題には、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題がバランス良く含まれている。これは、高等学校において「簿記・会計」を理論的かつ偏りなく学ぶ必要性を示唆しており、高等学校における「簿記・会計」教育の在り方へのメッセージが感じられる。日々の授業を通して、「簿記・会計」分野における思考力・判断力・表現力等を身に付けさせることが重要であり、今後もこのような作問がなされることが、「簿記・会計」教育の発展につながるものと思われる。
- (2) やや解答時間に不足が生じている傾向が見受けられる。受験者が問題全体にわたって解答する時間が確保できるような問題作成となるよう配慮をお願いしたい。また、「簿記・会計」は高校入学後に初学することを踏まえ、学習指導要領への準拠はもちろん、教科書で使用されている表現の使用等の重視を引き続きお願いしたい。